

実践報告

石川県の医療施設における 看護師の糖尿病療養指導の現状

Nurses' diabete education for patients in medical institutions
in Ishikawa prefecture : A questionnaire survey

多崎 恵子¹⁾, 野村 仁美²⁾, 稲垣 美智子¹⁾, 松井 希代子¹⁾
村角 直子¹⁾, 田口 尚美³⁾, 村田 信子³⁾

¹⁾ Keiko Tasaki, ²⁾ Hitomi Nomura, ¹⁾ Michiko Inagaki, ¹⁾ Kiyoko Matsui
¹⁾ Naoko Murakado, ³⁾ Naomi Taguchi, ³⁾ Nobuko Murata

¹⁾ 金沢大学医薬保健研究域保健学系

²⁾ 金沢社会保険病院, ³⁾ 公立羽咋病院

¹⁾ Faculty of Health Sciences, Institute of Medical, Pharmaceutical and
Health Sciences, Kanazawa University

²⁾ Kanazawa Social Insurance Hospital, ³⁾ Public Hakui Hospital

キーワード

石川県, 看護師, 医療施設, 糖尿病療養指導, 日本糖尿病療養指導士 (CDEJ)

要 旨

石川県の医療施設における看護師の糖尿病療養指導の実態を明らかにすることを目的に、糖尿病看護の総括看護師を対象に自記式質問紙調査を行い、26施設より有効回答を得た。その結果、8割の施設では糖尿病患者教育システムが整っていた。しかし199床以下の施設においては、糖尿病患者教育のシステムが整備されていない割合が高く、日本糖尿病療養指導士（以下CDEJ）有資格看護師（以下CDEJ看護師）の少なさがその要因と考えられた。CDEJ看護師は、内科病棟に4割、それ以外は全体部署に配置され、6割以上のCDEJ看護師が糖尿病患者に関わっていた。CDEJ看護師の意図的スタッフ教育や存在アピール行動は5～6割の施設で行われていたが、施設や看護部のCDEJ資格取得や資格を生かそうとする配慮に比較すると、控えめな傾向であった。看護師がCDEJとしての能力を発揮するためには、保険点数等による客観的評価や、糖尿病療養指導を評価されるシステム構築の必要性が示唆された。